



子ども・若者ご縁づくり中央連絡協議会 及び スキルアップ研修会



平成29年9月6日から8日の2泊3日
をかけ、子ども・若者ご縁づくり中央連
絡協議会・スキルアップ研修会を行いま
した。例年は、教区マネージャー1名と
担当職員を対象とした連絡協議会のみで
したが、本年度は参加人数枠を増やし、
特に若者へのご縁づくりに対する取り組
みを、より多くの方に深めていただき、
また若者との関係性を構築するためのス
キルアップ研修会を併催させていただき
ました。

1日目「中央連絡協議会」

最初に、弘中貴之（子ども・若者ご縁
づくり推進室長／浄土真宗本願寺派副総
務）より基調提案をいただきました。

◇「ご縁づくりは「教化活動」です

「子ども・若者ご縁づくり」とは、0
歳から40歳未満の方々を対象とし、世代
と属性に応じた教化活動をすることです。
また、「ご縁づくり」に取り組むに
当たり私たち推進室は2つの視点を大切に

にしています。

1. 浄土真宗・お寺・僧侶や、「手を
合わせお念仏申す」ことの意味を、
わかりやすく正しく伝えること、こ
れらに親しみ馴染んでもらうこと。

2. 現代社会を生きる子ども・若者た
ちの現状に学びながら、彼らに寄り
添い、ともに「人生の方向と生
きる意味」を阿弥陀様に聞いていく
「居場所づくり」を行うこと。

この2つの視点を大切にしながら、相
手に合わせた一歩を踏み出せる階段をつ
くることが重要です。具体的には「あな
た」から声かけをすること。それがアプ
ローチの一歩ではないでしょうか？

◇「ご縁」を「つくる人」を増やそう

ご縁の数を増やすことは、ご縁をつく
る人を増やすことです。それは、ご縁づ
くりをしている寺院を増やすことにもな
るでしょう。各教区・組・寺院やキッズ
サンガ、少年連盟、仏教婦人会、仏教壮
年会など、それぞれの立場で「ご縁づくり
の一歩目をつくり、ご縁の数を増やして



中央連絡協議会

いきましよう。

◆なぜ「ご縁」の数を増やすのか？

宗報2017年7月号で紹介した「人口推移」の統計データには、大多数の若者世代が、大学進学や就職などを理由に東京圏に集中して移動することが記されています。現代の若者世代の特性として、多くの方が大都市へ移動するからこそ、幼少時から、み教えやお寺、僧侶に馴染んでもらうことが今まで以上に大切

になるのです。ある実験で「名前しか分からない人に手紙を届けるには、一体何人の人を介さなければならぬでしょうか？」という検証が世界規模で行われたそうです。結果は6人でした。私たちは自分が思っているより小さな世界の中で暮らしているのです。まずは目の前の人にご縁をつくっていくこと。その一歩が、ご縁を無限に広げていくことにつながっていくことでしょう。

具体的には、今、お寺や僧侶とご縁がある方々に「子ども・若者ご縁づくり」のご協力をいただきましよう。門信徒のみなさまは、色々な立場で社会と関わりを持たれています。多くの方にご協力をいただき、ご縁づくりの輪を広げていきましよう。

この輪が広がる事により、子ども・若者たちが親鸞聖人の教えに親しみ、お聴聞する人となり、自他ともに心豊かに生きることのできる人生と社会の実現者になってもらいたい。これが「子ども・若者ご縁づくり」の願いです。

次に東京教区、大阪教区、東海教区、大分教区、山陰教区の5教区から若者を対象としたご縁づくりの取り組みの報告をしていただきました。それぞれの共通点として、推進体制が整備されている点やそれぞれの各教化団体の良さを引き出しつつ、ご縁づくりの取り組みにつながっている点がありました。先ほどの基調提案にもありましたように、ご縁づくりは、ご縁のある方を多く巻き込んで、活動を広げていく必要があります。この報告はご縁づくり推進に課題を持つている教区のヒントとなったと思います。

また、「子ども・若者ご縁づくり推進室」で行われている2017年度推進事業の説明もありました。様々な方から各事業に対してとても注目しているとのこと意見がある中で、その活動（思春期シンポジウム、スクール・ナランダなど）の教区版への展開の要望の声を多くいただきました。現在、推進室の取り組みで行っている事業が各教区の事業として開催できる方途を研究する事が、今後の取り組むべ

き課題となります。

スキルアップ研修会

7日から8日の午前中まで「お寺の未来共創ワークショップ」と題した研修会を開催しました。これは、若者との関係性を構築するために参加者それぞれが、自教区で、仲間と共にご縁づくりの企画などを創り出せるようなスキルを身につけていただくことを目的としたものです。研修内容は、ワークショップ形式^{*2}による「子ども・若者ご縁づくり」のアクションプロジェクトの企画づくりです。以下の順で企画づくりに挑戦しました。

- 1、コミュニケーションスキルを上げる↓積極的な発言と傾聴
- 2、手法を体得する
- 3、地域を超えたネットワークを形成する
- 4、自らの課題や強みを明確にする
- 5、具体的なアクションプランとプロ

プロジェクトを企画する

また、進行にあたり、5つのグラウンドルールが設定されました。

- ・ここは安全なシエルターです。発言は守られます。
- ・タイムキーパー^{*}を持っている人しか発言できません。所持者は1分以内に発言を終え、速やか^{すみ}に次の方に渡してください。
- ・ファシリテーター^{*3}が手を上げたらみんな手を上げて注目してください。
- ・相手の意見を否定せず、傾聴を心がけましょう。
- ・職位の上下関係なく、〇〇さんと呼びましょう。

このルールにより5つのメリットが生まれます。

- ①安心して発言ができること。
- ②時間を区切ることで発言の機会が与えられ、また発言の内容を短くまとめて話ができること。
- ③ファシリテーターの進行に参加者が従いスムーズな進行ができること。

④発言を一度受け入れて考える姿勢で聞けること。

⑤敬称を統一することで同じ立場で発言できること。

このルールを守ることににより、それぞれが発言し、それぞれの考えをしつかりと聞ける議論が繰り広げられました。普通の会議では、大きな声の意見が通りやすかったり、様々なアイデアを持っている人の意見を引き出せなかったり、時間がかかるのになかなか前に進まないということがあります。

そのような問題を解決して、実りある話し合いができるようになります。

このグラウンドルールを基本ベースに「子ども向け課題」「若者向け課題」として、具体的なアクションプランづくりに入っていきましました。

- 1、課題のリストアップ
- 2、その課題を深く掘り下げ、具体化していく
- 3、私たち（お寺、僧侶、個人）が持つ強みを出す



アクションプランの発表

4、それらを踏まえてアクションプランを構築する

現状の課題を出して、その課題を深く掘り下げていく。これは企画づくりのうえで、今まで各自がなんとなくしていたことかもしれません。ですが、今回のように様々な意見を持つ者が集まり、ワークシoppを進める中で、ほんやりとしていた課題が、カテゴリーズされていき、より具体的な課題に整理されます。

その整理されたものと、持っている強みを比較しながら、今までの課題を解決できる具体的なアクションプランを構築していくのです。私も、一緒に取り組む中で感じたことは、整理する中で問題の本質が見えやすくなることにより、何に取り組むべきかというアクションプランの強い裏付けができます。それはとても大きなことで、これまで、不安な中、何か行動を起こさなければならぬと、様々な子ども向けの催し^{もよお}などをしていました。ですが、明確な課題を見つけて、その問題を解決するために、行動を起こすという流れの中で、目的を持ってアクションを起こすことができるようになりますと感じました。

若者向け課題に関しては、子ども向け課題と大きく違う点が一つありました。それは、対象者像（ペルソナ）を作ることです。

- 1、対象若者像（ペルソナ）確立
- 2、私たち（お寺、僧侶、個人）が持つ強みを抽出

3、アクションプラン案出し
4、アクションプランの構築

ペルソナとは「商品やサービスを提供する、最も重要で象徴的なユーザモデル」というもので、企業のマーケティングなどに使われているものです。それは、具体的な年齢、性別、職業、趣味、悩み^{なや}など象徴的な「人物」を設定することによって、その人の行動やライフスタイル、価値観などが明確に浮かびます。そうすると、どのようにその人が来られるのかという具体的な手法が浮かびやすくなるのです。それまで対象を「若者」としか設定しなかった際には、「私が行っていいのかどうか」がわかりにくく、ターゲットがばやけてしまいます。ペルソナとして具体的な人物を設定することにより、その人に向けた「あなたに来て欲しい」という催しを作れるのです。

「若者」とひとくくりにする事は、個を見ないことにつながります。「若者」といっても、様々な人がいます。それぞ



ペルソナづくり

れ、興味の方向性、価値観、ライフスタイルも違います。ですから、それぞれにあった段階の一步目が違うわけです。それぞれの最初の一步目を対象を絞って企画していくことが、若者を対象とした催しには、必要になると教えていただきました。

近年は、SNSなどのツールにより若者同士がつながっています。「インスタ映え^ば」という言葉が昨年の流行語大賞に

なったことでもわかるように、そのつながりのスピードと影響力はますます大きくなっています。だからこそ、ペルソナを絞り、広げていくという方法を、今後取り入れていく事が重要だと改めて感じさせていただきました。

この中央連絡協議会、スキルアップ研修会の参加者で、情報交換を目的にフェイスブックページを作りました。それは、教区の枠を超えて、「子ども・若者へのご縁づくり」の方法を共有しているという思いからです。私たちの取り組むべきことは、今の課題を共に考え、新たな活動を創り出し、次代を担う人^にに縁を結ぶことです。

最後に、子ども・若者ご縁づくり中央連絡協議会・スキルアップ研修会に参加してください。一つは、本場にありがとうございまして。一つの教区だけではなく、すべての教区がお互いに助け合いながら、「子ども・若者ご縁づくり」という

大きな課題に取り組むことであると共通認識できたことは大きな成果であったと思います。今後、共に創り出したご縁が各教区で成果を上げていけるよう、また一人でも多くの子ども・若者に阿弥陀様とのご縁に気がついていただけるような活動を行ってまいりたいと思います。

「子ども・若者ご縁づくり推進委員会
若者ご縁づくり部会 藤井恵昭」

*1 各教区の「子ども・若者ご縁づくり推進委員会」設置状況は、21教区で設置をされ、キッズサンガから引き継ぎの委員会として設置が6教区、未設置が5教区（2017年現在）

*2 ワークショップ（workshop）とは、一方向的な知識や技術の伝達ではなく、参加者自らが考え、体験することにより、参加者同士の相互作用で新しいアイデアや方策を創り出したり、気づきを得る場

*3 ファシリテーション（facilitation）とは、ワークショップ参加者同士の知的相互作用を促進し、成果が最大となるようにするための働きかけ